

はじめに



はじめに

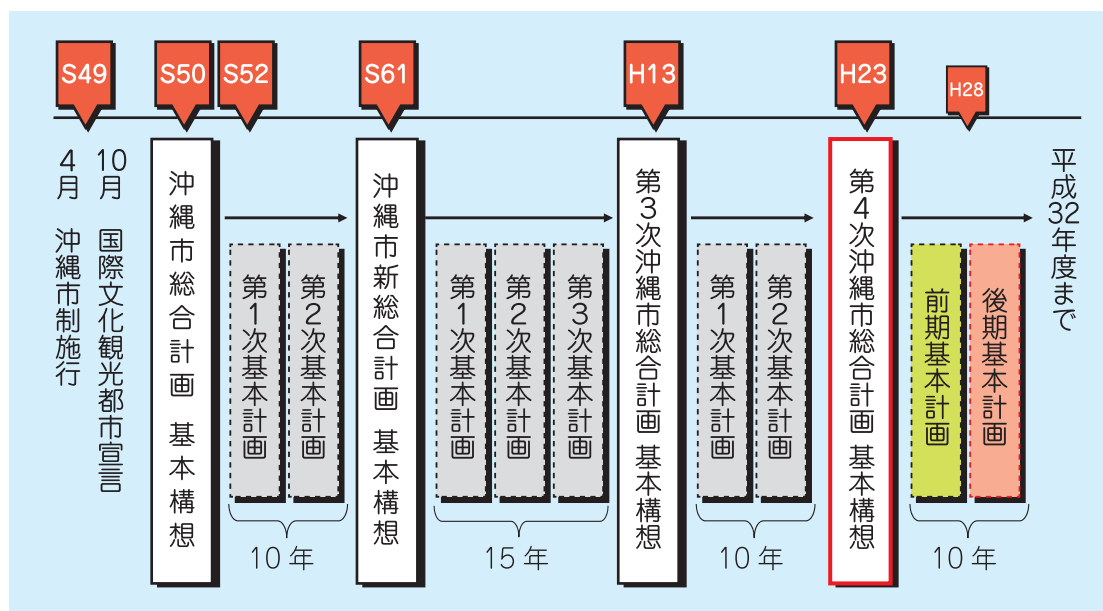


1 沖縄市総合計画

沖縄市総合計画は、将来像である「国際文化観光都市」の実現に向けたまちづくりの方向性や取り組みを示す、本市の行政計画の最上位となる計画です。

本市の特性や時代の流れ、これまでの計画課題などをふまえながら、市民とともに将来像の実現をめざすため、第4次沖縄市総合計画（基本構想・基本計画）を策定し、様々な取り組みを進めています。

沖縄市では、市制施行からこれまでの間に、4次にわたる総合計画を策定しています。





2 総合計画の構成と期間

「総合計画」は、基本構想（計画期間10年間）、基本計画（計画期間5年間）、実施計画（計画期間3年間）で構成しています。

●総合計画の構成



長期的な視点で、市の将来像や基本理念、まちづくりの方向性を示す都市像等をまとめたものです。

■計画期間 10 年間

基本構想の都市像を実現するための取り組みを、教育・福祉・環境・交通・産業等といった分野別で体系的にまとめたものです。

■計画期間 前期・後期の各 5 年間

基本計画に基づいて、具体的な事業や事業費などをまとめた、予算編成の指針となるものです。

■計画期間 3 年間（毎年度更新）

●第4次沖縄市総合計画の計画期間

年 度	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
基本構想	平成 32 年度を目標年度とする 10 年間（H23 年度～ H32 年度）									
基本計画	前期基本計画（H23 年度～ H27 年度）					後期基本計画 5 年間（H28 年度～ H32 年度）				
実施計画						3 年間				



③ 沖縄市の特性

(1) 国際文化観光都市

1974年（昭和49年）4月1日、戦後、基地の街として急速に発展したコザ市と、中城湾港を臨む緑豊かな美里村が合併し、沖縄市が誕生しました。

同年10月26日には、「健康で美しい沖縄市」「明るくて住みよい沖縄市」「平和で豊かな沖縄市」を市民の願い、望み、目標とする「国際文化観光都市」を宣言しました。その後、まちづくりを推進する柱として、「スポーツコンベンションシティ」や「エイサーのまち」、「こどものまち」などの宣言をおこない、国際文化観光都市の実現に向け、本市の特色を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

一方、本市には米国や中国、南米など40カ国以上の外国人市民が居住しており、生活習慣や言語等、多様な文化が混在する国際色豊かなまちです。

また、エイサーをはじめ、ジャズやロック、民謡など、伝統文化と異文化が融合した戦後沖縄の文化でもひと際特徴的なコザ文化が醸成され、常に沖縄の戦後文化をリードしてきました。芸能文化は、国際文化観光都市の実現をめざす本市の貴重な資源であり、まちづくりの重要な財産です。

(2) 中部の中核都市

沖縄市は、沖縄本島の中央部に位置し、戦後、基地の門前町として発展してきた県内第二の人口を有するまちであり、南部圏域と北部圏域を結ぶ国道329号と国道330号が交差する交通の要衝となっています。

主な施設としては、こどものための施設であり、県内唯一の本格的な動物園を有する沖縄こどもの国をはじめ、コザ・ミュージックタウンや沖縄市戦後文化資料展示室ヒストリート、沖縄市民会館、沖縄市立総合運動場に加え、沖縄県総合運動公園や沖縄県中部合同庁舎、沖縄警察署、那覇地方裁判所沖縄支部など広域的な施設が集積しています。

また、沖縄全島エイサーまつりや沖縄国際カーニバルなどの沖縄県を代表する祭りやイベントを開催するなど、中部圏域の中核都市として、その役割を担っています。

(3) 位置

沖縄市は、沖縄本島の中央部に位置し、市域面積49.0km²の約9割が標高100m以下の地域で、中城湾に面する東海岸部から斜面地域が連坦しながら、西北部の丘陵域へと広がっています。北はうるま市・恩納村、南は北谷町・北中城村、西は嘉手納町・読谷村に接し、南東は中城湾に面しています。

また、自然的、社会的、経済的および文化的諸条件を勘案し、北部地区、中部地区、東部地区、西部地区の4つの地区に区分しています。

北部地区は、丘陵地が広く卓越し、台地・段丘が複雑に分布する地形をなし、地区の多くを米軍施設・区域によって占められています。

中部地区は、斜面地となだらかな傾斜の台地からなっており、国道329号と国道330号が交わるコザ十字路を中心に地区の全域が用途地域となっています。

東部地区は、地区の大部分が海岸低地からなり、斜面を経て丘陵部へと移行する地形で構成されており、近年市街化が進行し人口が増加しています。

西部地区は、戦後、胡屋十字路周辺を中心に、基地の門前町として急速な発展を遂げてきた地区です。



(4) 気候

沖縄本島は琉球諸島の西側海域を北流する黒潮の影響を受け、温暖で四季の寒暖差が小さい亜熱帯海洋性気候に区分されており、一年を通じて温暖な気候に恵まれ、年間降水量は2,000mm以上となっています。

年間平均気温は約23℃となっており、月平均でみると4～12月の間、20℃以下となる月は無く、最寒月の2月でも10℃以下になることはきわめて希です。

季節風が強く発達する東アジア季節風帯に属しているため、風は東北方向からの風向に大別され、春季は風向きが変わりやすく、時おり温帯低気圧が発生・通過し、海上は時化の日が多くなります。

5月頃から6月にかけて本格的な梅雨期となり、それが過ぎると毎年多くの台風が接近します。10月頃になると、ミーニシ（新北風）と呼ばれる北東からの風が吹き、3月まで続きます。

（５）人口、産業構造

沖縄市の人口は、平成22年国勢調査において130,249人となっており、前回調査に比べ、3,849人増と県内二番目の人口となっています。

人口増減率は3.0%と過去最低の伸び率となっていますが、増減数でみると県内3番目の人口増となっています。

世帯数は47,999世帯となっており、前回調査に比べ、3,349世帯が増加していますが、一世帯当たりの人員は2.7人と過去最低を示していることから、核家族化の進展がうかがえます。

平成27（2015）年10月1日現在の住民基本台帳に基づく総人口は140,221人、総世帯数は58,410世帯と増加傾向にあります。

平成22年国勢調査における本市の労働力人口は58,803人、就業者人口は50,271人となっています。平成2（1990）年から平成22（2010）年の20年間で就業者は8,359人増と増加傾向にある一方、就業率は平成2年の53.4%以降減少傾向にあり、平成22年には47.8%と最も低くなっています。

平成22年国勢調査における産業別就業者数の割合は、第三次産業が72.2%と最も高く、第二次産業は14.9%、第一次産業は1.2%となっています。

本市は、県全体と比べて第一次産業の占める割合が低く、第三次産業が高くなっています。そのなかでも卸売・小売業やサービス業が高い割合を占めている状況にあります。